

闖入者

——お茶の水寄宿寮にて——

「開けて下さい。」

たてきつた部屋の外に

誰かがおとなふ聲がする。

外はシンとした夜中で

樹々にはささやく風もない。

そして、ひとりぼちの私の所へ

今頃たあれも来る筈はない、

だが

やつぱり誰かゐる。

扉に忍び噛く聲がする。

「開けて下さい。」

「開けて下さい。」

——扉をひらいた。

洪水のやうにおし入つて来た青い月光。

部屋の隅々迄も流れ入る

夜のうつくしい闖入者よ。

氷のやうなそなたの接吻の

この冷たさはどこからの訪れか。